

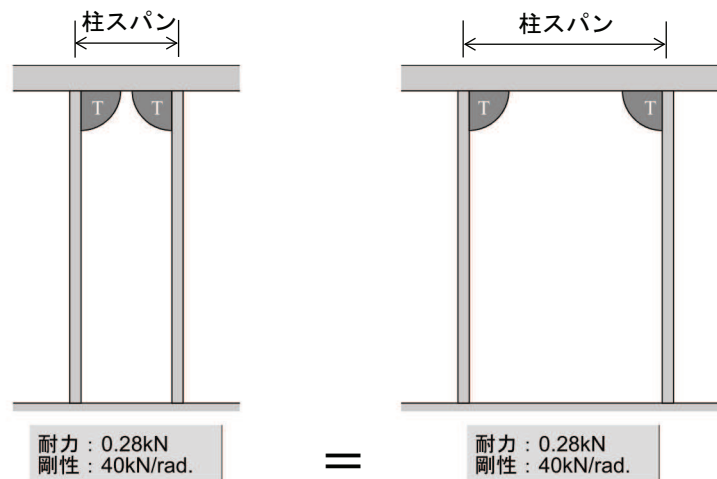
マゼラン 配置パターン例

「木造住宅の耐震診断と補強方法」には、主に在来軸組構法の補強を対象とした「方法1」と、主に伝統的構法の補強を対象とした「方法2」があります。

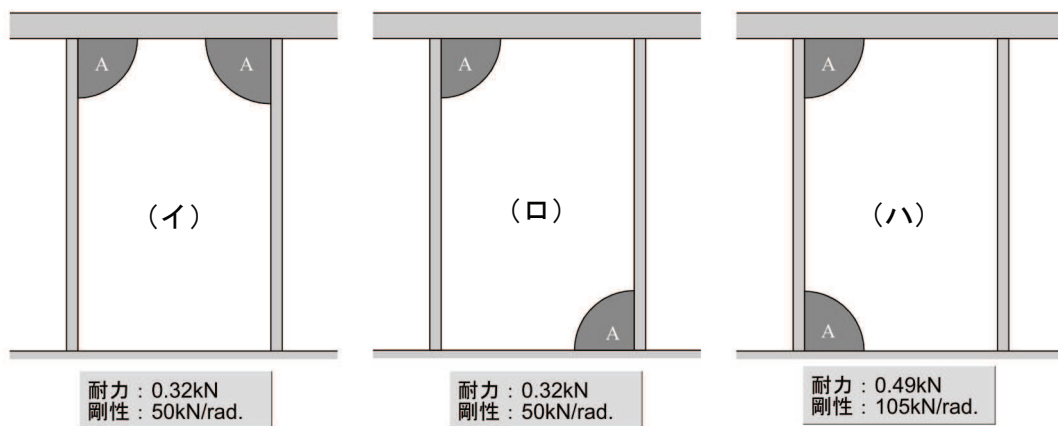
以下に示す配置パターン例は、「方法1」で柱小径が100mm以上の場合のものです。在来軸組構法で一般的に用いられる柱径は105mmまたは120mmですが、いずれも設計耐力は同じです。柱小径100mm以下の場合(例えば90mm)は耐力が異なってきます。

また「方法1」では「一般診断法」と「精密診断法」がありますが、耐力評価は同じですので、「精密診断法」の耐力と剛性を示します。「一般診断法」では耐力値のみ用い、剛性値は使用しません。

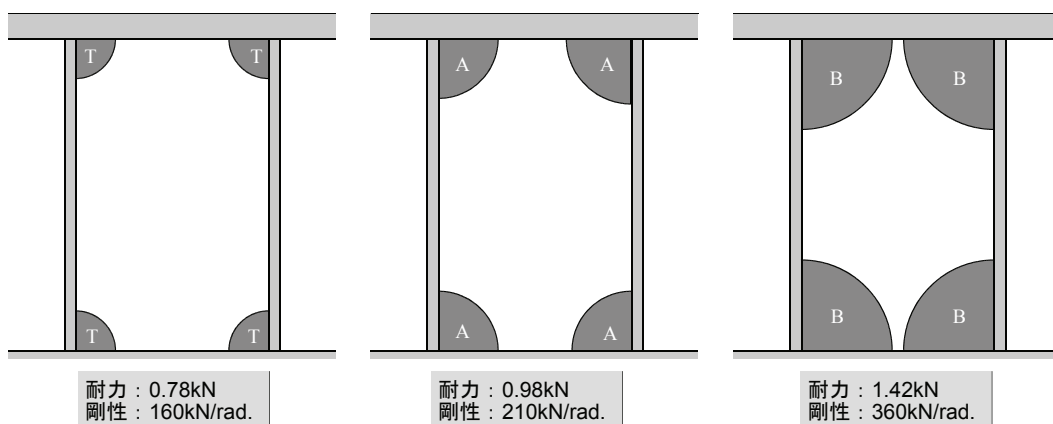
- 性能値は柱1本当たりで表されますので、柱スパン(いわゆる耐力壁長さ)には一切依存しません。



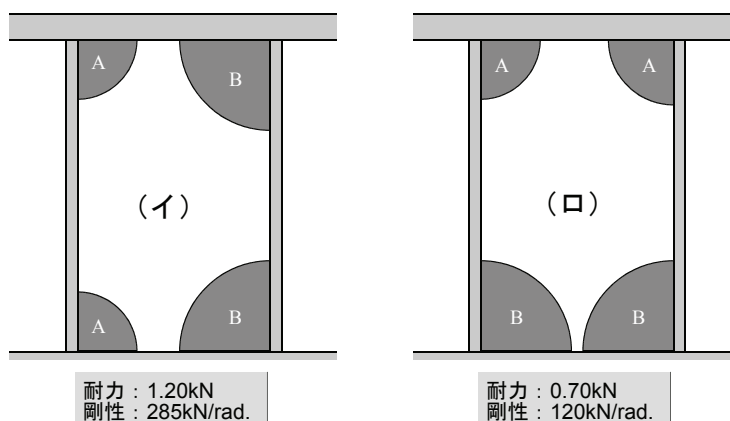
- 1構面にマゼランを2個取り付ける場合、取り付け方によって性能値が異なってきます。(ハ)のように柱上下に取り付けるほうが有利です。



- 1 構面に最大 4 個のマゼランを設置することができます。
T タイプは材質や厚さが異なるため、見付けの大きさの割には強いタイプです。



- 開口の状況等に応じ、1 構面の中で異なるタイプのマゼランを組み合わせる事が可能です。ただし、(ロ)のように 1 本の柱上下で異なるタイプのマゼランの使用では、上下それぞれの性能値の加算で評価しますので、結果的に評価は低くなってしまいます。



- 柱スパンが短い場合、B タイプ 1 個を設置するより、T タイプ 2 個を設置するほうが性能値は高くなります。

